

金沢ふるさと偉人館

竹久夢二の詩を イメージにした写真展

課題詩から自由に詩の一行を選び、それを題名にしたものです

平成23年7月2日(土)～7月24日(日)

A 宵待草

までどくらせどこぬひとを
宵待草のやるせなき。
こよひは月もでぬさうな。

B 母

夜はよもすがら母うへは
ちくちく編むであらつしやる。
朝におろした靴下も
晩には大きな穴があく
ゆふべとなればあかあかと
ラムプのもとに母うへは
やぶれた穴をつぎながら
歌をうたつてゐらつしやる。
母のなさけにしみじみと
やれた子供の心をも
かなしい子供の涙をも
ほどようふいてたもるもの。

C 花のゆくえ

ほろり ほろり と、花がちる。
花にゆくえを聞いたならば。
空へ舞ふのは、蝶になる。
海へ落ちれば桜貝。
花はのどかに笑ふてる。
ほろり ほろり と、花がちる。



【開館時間】
午前9時30分～午後5時

D 春のあしおと

どこかしら
白いぼうるのはずむ音いつかしら
足音もない春がきた
隣の室へ春がきた。
なにかしら
うれしいことがあるやうに
春がわたしをのつくする。

E 街燈

巷をゆく男よ、女よ。
街樹を吹く風も、街の上の空も
この若者の悲しみにかかはりもなし。
巷にて彼に行逢ひし友よ。
いま若者の心は悲哀に充てり
手をとらば涙あふれむ。
悲しめるものは、ひとりゆくこそよけれ。
悲哀のいやはてまで歩みゆかしめよ。
悲哀のつくる日なきごとく……。

金沢ふるさと偉人館
金沢市下本多町6-18-4
Tel : 076-220-2474

